

ほんじょうはらいがわ
都市計画道路本城弘川線街路事業

受賞機関 北九州市建設局

はじめに

都市計画道路本城弘川線は、副都心黒崎から本市の四大プロジェクトとして位置付けられている「北九州学術・研究都市」への重要なアクセス道路である。本路線を整備することにより、大学や研究機関等の施設の整備を促進するとともに、本市北西部の道路ネットワークの充実を図るものである。今回の整備区間は1,720mであり、起点（国道199号本城二丁目交差点）から北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業の区域境までの807mの区間を街路事業にて整備を行った。



事業の概要

- 延 長：807m（内、橋梁部L = 45m
トンネル部L = 491m）
- 幅 員：25.5～30.0m
- 道路種別：4種1級
- 設計速度：60km/h
- 事業期間：平成9年度～平成16年度
- 事業費：約59億円

事業の特徴

本路線は、市内最大の緑地保全地区である本城緑地保全地区を通過しているため、可能な限り植生や動物の生息環境を復元できるように以下のような対策を行っている。

1. 道路構造の検討

樹林地や水辺に与える影響が最も小さくなるよ

うに、果樹園・畑地等を通過するルートとした。

水辺の改変を避けるために橋梁形式を採用。

植生の回復や新たな自然環境の創出を図るためにトンネル構造を採用。

盛土の勾配をできるだけ緩やかにし、植栽による復元・創出が可能となるようにした。

工事用道路を計画路線内に確保し、路線周辺の自然環境への影響が最小となるようにした。

トンネル坑口や擁壁等のコンクリート面が露出する箇所は、現地採取したツタ類を植栽し壁面緑化を行った。

2. 生物に配慮した附帯施設

緑地保全地区内へのゴミ等の投棄や動物の横断を防止するための防護柵を設置。

カスミサンショウウオが確認された地点では、移動経路の確保として道路下部に横断ボックスカルバートを埋設。

また、平成14年から近隣の自治会等が中心となり周辺の森から種を拾い育てる活動が行われていた。この活動を発端に、平成15年には地域住民と植栽活動を行い、平成16年には周辺の保育園・小学校等や市民に広く呼びかけ、計10回の植栽イベントを行って約18,000本の苗木（現地に自生するカシ類・クスノキ・シイ等）の植栽を行った。



植栽イベント

賛助会員 アイサワ工業(株)、(株)安部工業所、りんかい日産建設(株)